

第3学年〇組 国語科学習指導案

平成28年4月28日

第3学年〇組

指導者 桑島 敦

1 単元について

(1) 単元名 『握手』～感想から批評へ～

(2) つけさせたい力

◎物語の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てる力。

(読むこと イ)

◎文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価(批評)する力。

(読むこと ウ)

(3) 本単元の意図

「レビュー」を広辞苑で引くと「①批評。評論。書評。②評論雑誌」とある。また「批評」は「物事の善悪・美醜・是非などについて評価し論ずること。」とある。私自身、広辞苑の意味として認識しており、「批評＝レビュー」と考えていた。しかし、「三省堂辞書サイト 10分でわかる「レビュー」」には、以下のような説明がされている。¹

【どういう意味？】

「評論・批評」のことです。そうした記事を掲載した「評論雑誌」もさします。「再検討」という意味でも使われます。

【もう少し詳しく教えて】

レビューは、英語のレビュー(review)からきた言葉で、語源的には「再び(re-)よく見る(view)」,つまり「見直し」という意味を含んだ言葉です。日本では主に、ある特定の対象についての批評・概観・報告・意見などを表したものをさします。

また、コンピューターのシステム開発では、工程ごとに行う「再検査」のことをいいます。

【どんな時に登場する言葉？】

この言葉は一般的には、新聞や雑誌の記事の見出しやタイトルで見かけます。書評を意味する「ブックレビュー」、金融や財テク記事のタイトルに「ファイナンシャルレビュー」、医療関係では「メディカルレビュー」などがあります。時事問題を扱った論説やコラムも「レビュー」とタイトルをつけていることがあります。学術分野では、紀要や論集のタイトルに「文芸レビュー」「〇〇大学レビュー」というように用いていることもあります。

コンピューター関連分野では、「基本設計レビュー」や「レビューテクニック」という使い方をします。

【どんな経緯でこの語を使うように？】

レビューは、「書評」「評論雑誌」の意味で新聞や雑誌などで広く用いられ、「評論」と表記するより若干堅苦しくなさそうな雰囲気があります。コンピューター分野で使われる英語のカタカナ表記から、「再検討」「見直し」という語源に近い意味でも使われるようになりました。さらに、インターネット時代に入り、書籍、テレビドラマや音楽、商品、ニュースなどのレビューページへの投稿や、個人ページでの書評や評論記事などで、評論家やジャーナリストあるいは学術関係者ではない一般の人々も気軽にレビューを表すようになってきたようです。

¹ 三省堂辞書サイト 10分でわかる「レビュー」の一部、

<http://dictionary.sanseido-publ.co.jp/topic/10minnw/018review.html> , 2016.4.13 閲覧

【レビューの使い方を事例で教えて！】

カスタマーレビュー

オンラインショッピングサイトには、商品説明のページに「カスタマーレビュー」というコーナーが用意されています。これはその商品（書籍・映画・音楽・家電製品など）の批評を、顧客が投稿できるコーナーです。近年では、このコーナーでの批評がユーザーの購買行動に大きな影響を与えるようになりました。

インターネットが当たり前になった今、「レビュー」が日常生活にあふれ、子供たちのことばの世界に関わっている。新作映画、音楽、ネットショッピング、アプリ、グルメにまで「レビュー」がなされている。生徒に挙手によるアンケートをとってみると、「新聞などの書評を読んで本を購入したことがある」「ネットショッピングの際にレビューを参考にしたことがある」「映画のレビューを参考にしたことがある」という生徒が数名いる一方で、スマートフォンのアプリをダウンロードするときに、「レビュー」を参考にする生徒が半数以上いた。

「レビュー」が気軽なものになったことで、その質も気楽なものになっている。日常生活に浸透しているレビューに振り回されることなく、生活に生かしていける力を身につけさせたい。

(4) 単元の目標

- ◎登場人物の生き方や考え方、作品の構成などに関心をもって読み進めようとする。(関心・意欲・態度)
- ◎物語の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てることができる。(読イ)
- ◎文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価することができる。(読ウ)
- ◎語句や表現技法の効果的な使い方を理解することができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イエ)

(5) 単元の評価規準と学習活動に即した評価規準 ※()の部分はAの状況、他はBの状況を示す

	ア 関心・意欲・態度	エ 読むこと	オ 言語に関する知識・技能
単元の評価規準	・登場人物の生き方や考え方、作品の構成などに関心をもって読み進めようとしている。	(1)物語の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てている。 (2)文章を読み比べるなどして、構成や展開、表現の仕方について評価している。	・語句や表現技法の効果的な使い方を理解している。
学習活動に即した評価規準	①学習の見通しをもち、(進んで)感想やコメントを書こうとしている。 ②作品に対する自分の考えをもち、(積極的な)交流によって考えを深めようとしている。	(1)①物語の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、作品に描かれている内容を(的確に)読み取っている。 (2)①コメント集にある感想やコメントを(共通点や相違点を挙げながら)読み比べ、作品を評価する観点を理解している。 (2)②構成や展開、表現の仕方に着目し、批評文として(自分の言葉で)文章にまとめている。	①抽象的な概念を表す語句や表現技法の効果を(的確に)理解している。

(6) 指導と評価の計画

	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活にある「批評(レビュー)」について考える。 ○学習の見通しをもち、学習計画を確認する。 ○短編映画作品の評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「批評」と「レビュー」の意味内容 ○単元の見通し ○作品をみる視点 	ア① <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導による観察 ・ワークシートによる考察
2	<ul style="list-style-type: none"> ○短編映画の評価コメント集から、作品を評価する観点を考える。 ○個人で考えたことをグループで発表し、意見交換をする。 ○グループでの話し合いの結果から、作品を評価する観点を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品を評価する観点 ・表現の工夫や効果 ・登場人物の人物像 ・ストーリーや展開の仕方 ・テーマ ・読後感 	エ(2)① <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導による観察 ・ワークシートによる考察
3	<ul style="list-style-type: none"> ○批評をするという意識をもちながら『握手』を読む。 ○私の「まなざし」(作品を評価するための視点、作品中の「ここを取り上げよう!」「ここに注目しよう!」)を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作品の内容理解 ○物語の構成や展開、登場人物の設定 	エ(1)① <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導による観察 ・ワークシートによる考察
4	<ul style="list-style-type: none"> ○『握手』における『私の「まなざし」集』を読み、自分の批評文に取り入れたい「まなざし」を選ぶ。(個人→グループ) ○グループでの話し合いの結果から、作品の注目ポイントについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○解釈の再構成 ○物語の構成や展開、登場人物の設定 	エ(2)② オ① <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導による観察 ・ワークシートによる考察
5	<ul style="list-style-type: none"> ○「まなざし集」を参考に、『握手』論(批評文)を書く。 ○『握手』論を読み合う。 ○学習の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○物語の構成や展開、登場人物の設定という観点による作品の評価 ○身についた力の確認 	ア② エ(2)② <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導による観察 ・ワークシートによる考察

2 授業の実際

1 時間目

(1) 日常生活にある「批評(レビュー)」について考える。

- ・書評、映画の批評サイト、ショッピングサイトにおけるカスタマーレビューの利用の有無や、どのような内容か、どのようなときに参考になっているかなどを話し合う。

(2) 作品の評価をしてみる。

- ・ピクサーショートフィルムの二作品(『PIXAR SHORT FILMS COLLECTION VOLUME 2』に収録されている『マジシャンプレスト』『晴れ ときどき くもり』)を見て、どちらの短編作品が良いと思ったのか、理由とともに書く。→「ショートフィルムコメント集」にまとめる。

2時間目 《批評の入り口》

(1) ピクサーショートフィルムのコメント集から、作品を評価する観点を考える。

①『走れメロス』の批評文を読み、批評の観点を知る。

☆作品を批評する観点²

- ・表現の工夫や効果（情景描写、比喩表現、文章のリズム など）
- ・登場人物の人物像や心情の変化（置かれている状況や立場、言動、人物の変容 など）
- ・ストーリーや展開の仕方（物語の内容、場面の展開の仕方、意外な結末、巧みな伏線 など）
- ・テーマ（作品に描かれた時代や社会背景、登場人物の生き方や考え方 など）
- ・読後感（読み終えた後、考えさせられたこと）

【学習プリント】

☆作品を批評する観点

①表現の工夫や効果
情景描写、比喩表現、文章のリズム など

②登場人物の人物像や心情の変化
置かれている状況や立場、言動、人物の変容 など

③ストーリーや展開の仕方
物語の内容、場面の展開の仕方、意外な結末、巧みな伏線 など

④テーマ
作品に描かれた時代や社会背景、登場人物の生き方や考え方 など

⑤読後感
読み終えた後、考えさせられたこと

★批評文の例『走れメロス』（桑島 作）

『走れメロス』という作品は、登場人物の変容のドラマが見事に描かれている。中心人物であるメロスだけでなく、正反対の人物であった暴虐の王様ディオオスの姿も見逃せない。「人の心を疑うのは、最も恥ずべき罪徳だ」というメロスと、「疑うのが正気の心構えなのだ」というディオオス。決して交わることはない二人を結ぶものは何か。人と人との関わりが希薄になつた現代社会に生きる私たちに、「信実」といふことを改めて考えさせてくれる作品である。

そのような登場人物のドラマを支えているのは、読者を作品に引き込む文体と情景描写である。

メロスの心は「何」になった場面では、メロスの苦悩が痛く感じられる。思わず走れメロス」と叫んでしまう。それは、親友の死がかかっているというストーリーの切迫感もあるが、メロスの揺れ動く心が巧みに表現されているからである。メロスの心の葛藤や苦悩が、「正義の、信実の、愛の、考えみればくだらない。人を殺して自分が生きる。それが人間世界の定法ではなかったか。ああ、なにもかもはかばかしい。……」と短い文体でただみかけるように描かれることで、読者の心も揺るがれるのである。

そして、約束の期限が迫り、もう無理だ、という絶望の状態で再び希望を抱く場面では「斜陽の赤い光を木の葉に投じ、葉も枝も燃えるほかに輝いている」と、メロスの抱く希望が決意の強い情景描写により生き生きと描かれる。この「燃える」の「燃」のめも色あせなく。

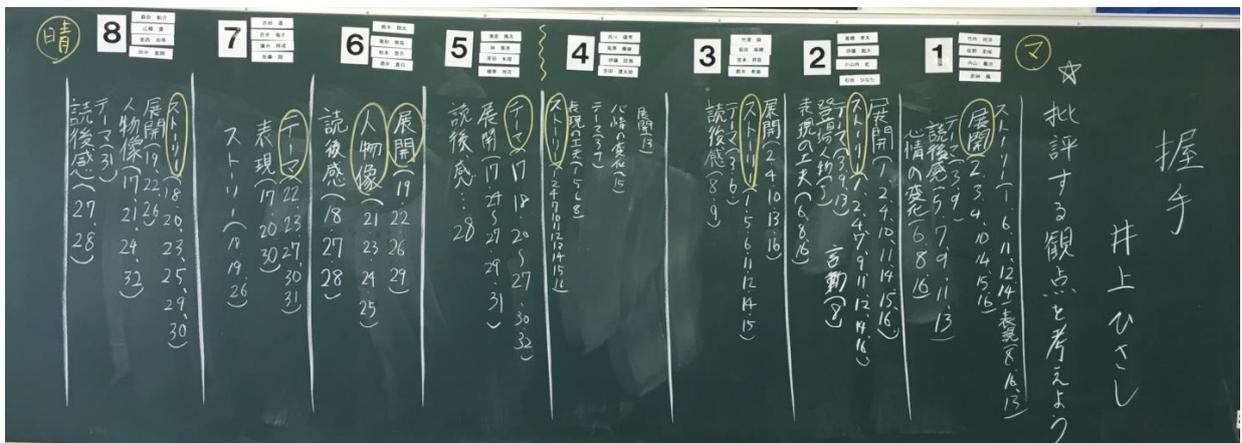
それぞれの登場人物の変容、それを支える優れた表現、『走れメロス』は、現代において

②コメント集にある一人一人のコメントに対して、どういう観点から作品を評価しているのかを考え、「表現の工夫」「テーマ」などのように、メモしていく。（個人）

→「表現の工夫」「テーマ」という抽象的なもの、一人一人のコメントという具体的なものとを結びつけてみる。

③個人で考えたことをグループで発表し、意見交換をする。※観点を一つにしぼらなくてもよい。

④グループでの話し合いの結果から、作品を評価する観点を確認する。



2 以下の参考文献から、筆者が定めた観点

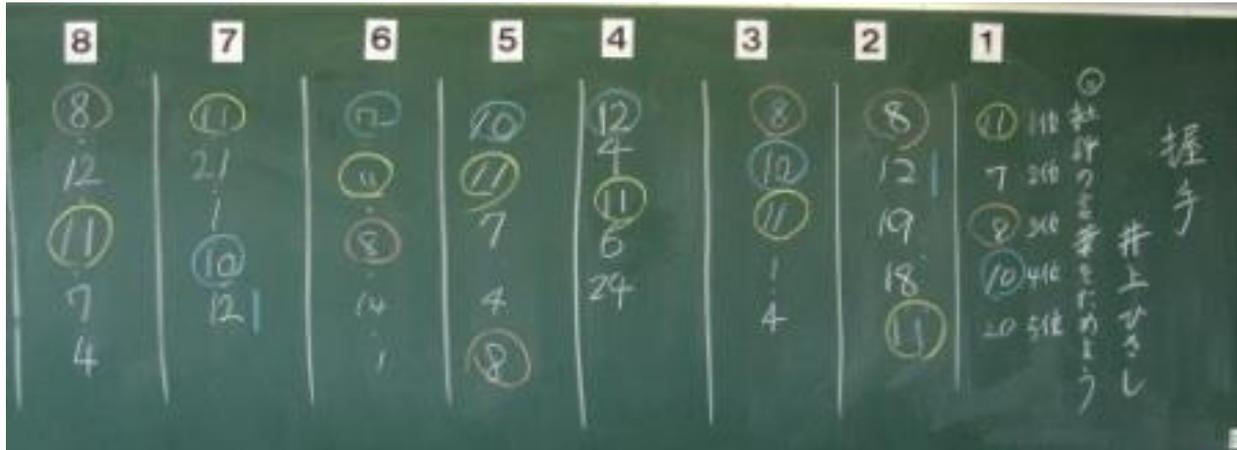
- ・「文学的な文章を読むために（物語・小説）」、『国語3』、光村図書、2016年、pp307-308
- ・文部科学省、「事例14【3年】物語や小説を読んで批評する事例（読むこと）」、『言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】』、2011年

3時間目

- (1) 批評をするという意識をもちながら『握手』を読む。
- (2) 私の「まなざし」（作品を評価するための視点。作品中の「ここを取り上げよう！」「ここに注目しよう！」）を書く。

4時間目 《批評のレベルアップ》

- (1) 『握手』における『私の「まなざし」集』を読み、批評するための材料・言葉を増やす。
 - ①自分の批評文に取り入れたい「まなざし」を3つ選ぶ。
 - ②4人組のグループを作り、個人で選んだ「まなざし」を発表する。
 - ③グループの中で支持を得た「まなざし」を5つに絞る。
- (2) グループでの話し合いの結果から、作品の注目ポイントについて考える。



「私の批評に取り入れたい」という「まなざし」は、共通のもの（11・8）に集中していた。「11」は、物語の最後に描かれている「わたしは知らぬ間に、両手の人さし指を交差させ、せわしなく打ちつけていた。」に表れている「わたし」の心情について、「8」は物語で象徴的に使われている「握手」や「指言葉」、また回想場面の挿入や情景描写の効果について考察をしたものである。このことから、作品を批評する場合にはその作品の注目ポイントがあり、『握手』の場合は、3回の「握手」の象徴性、回想場面の挿入による効果、ルロイ修道士の生き方ということが、作品を語る上では重要な要素であることが確認できた。また、このように「11」と「8」に生徒の選択が集中したのは、物語のクライマックスに関わる表現や描写に注目することを、これまでの文学的文章の学習から経験的に導き出されたのではないかと考えられる。

5時間目 《批評の実践》

- (1) 「まなざし集」を参考に、『握手』論（批評文）を書く。
- (2) 『握手』論を読み合う。
- (3) 学習の振り返りを行う。